



集落支援だより

皆さんこんにちは！
 地域おこし協力隊の渡辺です。
 今月の集落支援だよりでは、LINEを活用した人足イベントの募集と軽沢・程窪集落の訪問についてお届けします。



地域おこし協力隊 集落支援担当
 わたなべ たかひろ
 渡辺 貴洋 隊員

LINEを活用した人足イベントの募集

奥川地区では、これまで人足作業の支援として、町外の人を受け入れた活動を行ってきました。しかし、どのように募集案内を行うのかなどといった、参加者を受け入れる仕組みが確立されていませんでした。そこで、今夏の人足では、人足の参加者を募集する方法として新たにLINEの活用を試みています。

まず、受け入れてくれる集落に作業場所や作業時間、受け入れできる人数などの聞き取りをしました。その内容を基に参加申し込みフォームを



作成し、LINEで大学生などに周知しました。

今回の人足の参加者からは、試験的での実施とはいえ、LINEは参加申し込みがしやすく、人足の体験も初めてであったため、普段の生



LINE画面の一例

活ではできない体験ができたとの声がありました。

この取り組みは、集落の負担を少なくし、ボランティアの受け入れを円滑にするために実施しています。集落が希望する人数が集まるように、これからは本格的な実施に向けて改善を重ねていきたいと考えています。奥川地区に限らず、どのようなものか詳細を知りたい、または、やってみたい集落がありましたら気軽に渡辺まで問い合わせください。



草木が生い茂り、町内各所で草刈りをする姿を見る機会が増えました。蒸し暑い日が続いていますので熱中症には十分に注意してください。

軽沢・程窪集落を訪問

本年度より担当地区が変更となり、野沢・尾野本・群岡地区の高齢化率60%以上の集落を中心に少しずつ訪問しています。約2年前に実施した集落の実態調査を基に、その後の変化や集落維持に向けてそこに暮らす皆さんと一緒に考えていけるよう話を聞いてまわっています。今回は、尾野本地区の軽沢と程窪の両集落の自治区長に現在の集落状況の聞き取りを行いました。

両集落とも、サロンへの参加や隣近所で声を掛け合うなど住民同士が顔を合わせる機会があり、互いに近況を確認し合っている様子でした。しかし、有害鳥獣の被害や集落の共同作業の人手不足問題は深刻化しており、今できていることが5年後10年後できるかは分からない状況だと話していました。

訪問して初めて集落の現況が分かることも多くあるため、これからも訪問を重ねていければと思っています。